

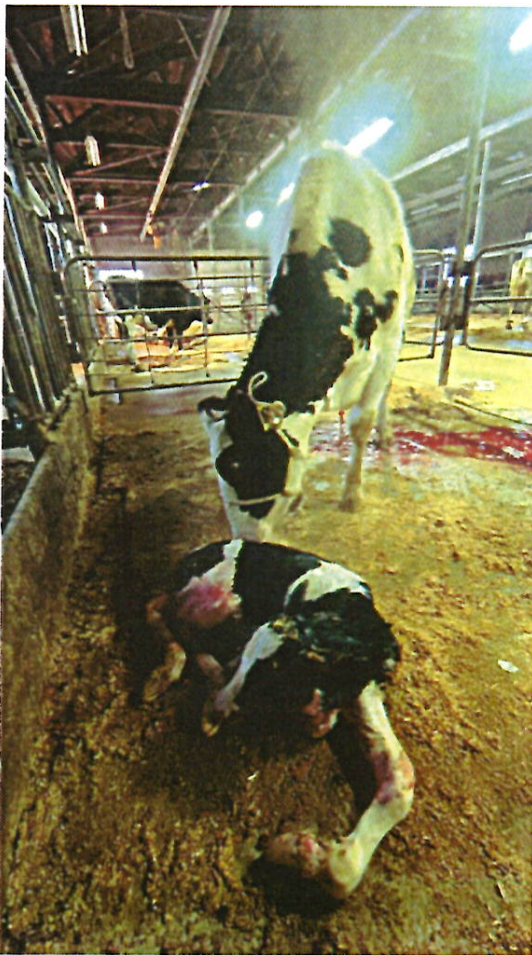
マネージメント情報

※OPU 産子第 1 号のホルスタインが無事に誕生しました

昨年 4 月 15 日に新しいラボとしての最初の OPU を行い作出した体外胚を新鮮胚移植し、妊娠していた牛が無事に分娩し、OPU-IVF 産子（ホルスタイン）第 1 号が誕生しました。因みに精液は 614H14220（S-S-I BG FRZZLD RIVETING-ET）でした。

レシピエントが初産のため若干の介助が必要でしたが、懸念していました過大児でも無く、異常も無く正常に産まれました。

これまで、F1 や和牛の肉牛での分娩実績はありましたが、乳用種での分娩は初めてでしたので少しホッとしています。また 1 つ関門をクリアーしたことになります。



※佐竹社長が OPU 始めました

今日（2/12）に今月最初の OPU を実施しました。現在 OPU は私一人で対応しているのですが、他にも技術者がいなければということで、佐竹社長が立候補してくれました。こんな真剣な顔を見るのは新人の時以来かな？と…

冬期間は気温が下がりますので、OPUの時はいろいろと温度対策を考えて対応しています。現在はO農場さんの牛舎をお借りしてOPUを実施していますが、ジェットヒーターで暖めた空気が抜けないように、下の右側の写真のように周り四方をブルーシートで囲い天井裏にはスタイロフォームを全面に貼っています。

その甲斐あってか気温は20°C近くまで調整することができるようになっていました。理想の温度まではもう少しなのですが、現状ではこのあたりが限界のようです。



.....
※おまけ

毎日受精卵の培養作業で頑張ってくれている栗林、筒井の両名ですが、たまには写真の様に直腸検査の練習？をおこなっています。筒井は学生時代に家畜人工授精師と体内も体外も家畜受精卵移植師の資格を取得済みです。二人とも今は培養の仕事にかかりっきりで



すが、数年後には自分で作った受精卵を自分の手で移植したいと写真の様にトレーニングをおこなっています。でも、佐竹社長の真剣な顔とは対照的です。

・来週、再度アメリカに行ってきます。目的はWisconsinで厳冬期の農場現場でのOPUの実際を2カ所見学することと、Idahoのクロスブリーディング(ProCROSS)の農場の訪問です。特にこのIdahoの農場は2003年からホルスタイン×ジャージーのCrossbreedingを始めて2006年からはProCROSSを取り入れて...現在の牛群は全てProCROSSで搾乳牛が1600頭、直近(12月)の乳検成績は平均乳量が36.4kg、乳脂肪4.3%、乳蛋白3.4%で、ここまでは驚かないのですが何と妊娠率が39%ということなのです。

妊娠率は20%をとりあえずの目標としますが、この数字はその2倍でダブルオブシンク、リシンクが普及して27-28%が一般的になってきたアメリカ大規模農場の妊娠率よりもさらに10%高い数字になります。

この秘密を探りたいと思っていますので、期待しててください。

・自前で体外受精卵を作ることができるので、その応用として自由な発想でいろいろな方法をチャレンジしています。例えば2卵移植があります。でも、ただの2卵移植ではありません。太田授精師のアイデアで双子の妊娠リスクが煮くなる方法で、しかも受胎率が驚くほど高い結果が出ています。これは次回のM情報で紹介しますね。